

地球温暖化に関するパンフレットを例にした評価方法及び評価基準の作成

北海道大学大学院 環境科学院

環境起学専攻 統合コース

高野 葵

環境に関するパンフレットは内容を正しくかつ分かりやすく伝えているべきである。しかしざっと見ただけでも科学的な誤解を招く表現や分かりづらい表記があるのが現状である。読者が手にしたときに情報が間違いのない、かつ伝わりやすいパンフレットにするための条件について考察した。良いポスターを作成するためのデザインに関する一般書(例えば、島崎, 2012)は多く見られるが、誰もが認めるような「良い」と評価の方法や項目に関するものは見られない。モノ、プロセス、サービスを比較・決定する際には、「標準化」(ISO 規格、JIS など; 奈良, 2004)が役立つ。本研究では発行されたパンフレットの評価に関する方法と項目を「標準化」の考え方に沿って提案することで、良いパンフレットとは何かを考察した。

地球温暖化に関するパンフレットを題材にして、文章の作成技法、グラフィックデザイン、認知科学、教育心理の知見をもとにして、次に述べる評価方法や項目を決定した。決定にあたっては周辺の方々に対する試行をもとにして改良を行った。最後に、地球温暖化に関わる専門家、実践化(地球温暖化防止活動推進員など)に特定のパンフレットについて評価してもらい、評価方法・項目の妥当性や有効性を確かめた。

パンフレットは表紙、内容本文、裏表紙などから成り立つ。内容本文には章タイトル、大見出し、中見出し、小見出しとレベル別に見出しがある。それに沿って文章やグラフ・写真などの図がある(これらを構成要素または単に要素と呼ぶことにする)。構成要素・見出しなど一つ一つに焦点を当てて評価できるよう分割する。これにより要素間の関係も評価できる。各要素・見出し・ページ、パンフレット全体に対しての項目があり、それぞれを5段階評価する。2つの視点「①科学的に誤り、もしくは科学的な誤解を招く表現でないか」、「②読者に配慮した分かりやすい表現か」を持って評価項目を決めた。①は、例えば、読者の恐怖をあおる、言葉足らずで科学的誤解を与えていないかが含まれる。また、②は、例えば、専門用語の使い方として読者が理解できるのかが含まれる。具体的には、構成要素が文章であれば、(a)誤植はないか、不正確な内容でないか、(b)複数解釈できる文はないか、(c)科学的な証明の条件より超えたことをいっていないか、(d)過度に読者をあおる表現でないか(e)専門的用語はないか/説明はあるか、(f)回りくどい言い回し、分かりづらい表現はないか、(g)図とリンクさせる表現はあるか、を項目として採用した。見た人が心地よいと感じられるのが良いデザインの条件である(島崎, 2012)ので、構成要素の配置やページ全体におけるデザイン、配色等も評価項目とした。

また、本研究で定めた評価方法、項目に関する実証調査では、漠然と良し悪しを判断するのではなく、体系的かつ具体的な判断基準による(特に分かりやすさと科学的な正しさを区別できる)評価が出来るような、評価方法および項目になっているということが分かった。